

## e-ビーフNEWS 北の牧場から

August 2018

## 十勝の真夏

暑い... エゾ梅雨が明けました。梅雨のないという北海道に居座った梅雨前線もやっと消え遅かった夏がやってきました。重だるい曇天と朝方の低温で作物の生育も遅れが目立ち、今年もダメかなと思っていたところ一気に夏に変身。北海道も猛暑に襲われています。特に内陸部や帯広もぐんぐん気温が上昇しています。長い低温生涯で特に豆類やデントコーンの生育に大きく影響しています。小麦は受粉時期に天候不順で不稔実が多い様です。天候回復で畑屋さんの小麦収穫コンバインが昼夜問わず動いています。小麦畑の残った葉茎を牛屋さんのベラーが大きなロールにしてゆきます。やっと動き始めたなと言う感じがですね。



## 活動のお知らせ

- 9月17日(月) ... 帯広 とかちプラザ 第2回オーガニックヴィレッジ  
9月22~23日(日) ... 有楽町 国際フォーラム 第3回オーガニックライフスタイルEXPO  
11月8日(木) ... 帯広 北海道畜産公社 第5回北海道肉専用種枝肉共励会  
11月8日(木) ... 帯広 帯広畜産大学 第15回資源循環型肉牛生産シンポジウム 2018

## NEWSばか読み

- 企業の4割 日銀が大株主 イオンなど5社筆頭株主  
6/27:実質国営企業
- 訪日客の宿泊 地方で4割超し増加 観光目的に変化  
7/2:一過性より定着性
- 6月和牛生肉市場 2ヵ月連続で下げ枝肉相場振るわず購買意欲減  
7/3:コストにあった仕入までまだ遠い
- 農業女子漫画が次々の登場 7/3:男の子も付いてゆけ
- 政府 再エネを主力電源に決定 荒廃農地を太陽光に活用推進  
7/4:食物のエネも一緒
- ふるさと納税 17年度3,653億円1.3倍に  
7/4:地方復活財源にもっと活用
- 牛肉輸出 最多ペース45%増新興市場(台湾、シンガポール)伸び  
7/5:新たな展開
- 米中 農産物に制裁関税を発行 7/7:貿易戦争勃発
- TPP11 日本国内手続き完了 7/7:米国抜きの影響は如何に分析
- 日本食肉格付協会17年度黒毛平均枝肉重量500kg超え上物率8割  
7/11:ホボ完成
- パルシステム連合 予約登録米登録者22万人突破 宅配利便性  
7/12:これも流通
- 西友 ウェルマート売却を検討/否定 7/13:日本で通用しない?
- 牛マルキン 肉専で全国発効 黒毛肥育採算割れ拡大  
7/13:耐久レース終盤

- 足寄吉川牧場 国産飼料だけで酪農 7/14:えっ初めて
- 厚生労働省 無菌充填豆腐 保存料なしで常温流通可能に  
7/14:輸出も視野
- 農林水産省 17年度チーズ消費過去最高34万t国産比率は落込む  
7/14:変化
- 畜産統計(2018/2) 乳牛132万頭(0.4%増)未経産牛42万頭(2.9%増)
- 西日本豪雨3日間で年間1割の過去最多の降水量  
7/17:異常気象は当たり前
- 日欧EPA牛豚肉チーズ関税削減や撤廃に 7/18:影響これから
- コープ九州連合 放牧酪農普及にプロジェクト開始  
7/19:消費者側からアプローチ
- ヤマトJAL 仏向け輸出でアンテナショップ新事業開始  
7/21:輸出に協働
- 6月生乳生産0.7%増 6ヶ月連続で昨対増北海道牽引  
7/23:底打ったか
- ミヤチク 宮崎空港に食肉専門店OPEN 畜産王国PR 7/26:北海道も
- 麺類輸出好調5年で1.5倍 日本食ブームで 7/25:可能性はいろいろ
- 農研機構、大分県で放牧使用でシンポジウムNZ事例報告  
7/28:ひとつの流れ
- 貿易統計 18年上期食肉輸入100万t超えの過去最高  
7/28:じわりじわり
- 政府 冷蔵豚肉の賞味期限延長で検討開始 輸出拡大  
7/30:と場から
- ドラックストア17年連続して食品売上増 7/31:流通の変化

## 東京直近NEWS (7/30 Shi-REPORT)

**ホルス** 8月枝肉相場は上げ基調で推移。頭数の不足から上場頭数少なく市場では高値続いている。販売については、7月よりかなり不調状況続いており前月まで勢いのあった、ロインも終息方向。時期的に三角バラが需要ある程度。赤身やカタロースの引き合いも現時点では回復しておらず、盆休前にも関わらず活気に欠けている。週刊誌での畜肉製品危険報道も影響しているのか、需要低迷が続いている。

**経産牛** 経産牛相場は高値安定状況。出回り頭数が少ないため高値継続、例年よりも少ない傾向から今後の相場も気になるところ。猛暑続きから瞬間的にと畜頭数増加模様だが、と場まで間に合わず死亡も増えている。販売は先月同様に赤身中心にロイン・バラ系不足継続しており、冷凍パーツの在庫も薄い模様。唯一カタロースが若干余裕ある程度か。挽き材についても、頭数不足から出来高減っており在庫は薄くなりつつある。コスト面も現枝肉相場の価格が転嫁してきており評価高騰。頭数の回復が待たれるが、時期が見えてこない。

# 左先生の畜産学研究NEWS

大坂北部を襲った地震に続き、西日本の豪雨災害は、この国の将来を不安に陥れた自然災害です。多数の犠牲者が出たり、将来の見通せない避難生活など、これ程日本人の住む国土の保全は危ういのかと…失われた生活基盤である土地を見るにつけ大地の恩恵に依存した農業が如何に地球の気候変動に脆いかを示していると思います。安全地帯で大規模農業を展開しているとみられている北海道で第34回国際農業機械展が開催され、人手不足を補う革新的技術などが展示されました。これら最新技術は頼もしい限りですが人間の知恵で大自然の不確実性をどう乗り切るかが今後の課題です、農業の担い手対策と共に農業の持続性確保は益々厳しさを増してゆくでしょう。 e-ビーふNews56号の学術情報は前号に続き、「畜産技術」#758、日畜会報#80:2(2018.5)からです。

### 1. 日畜会報#89:2, 171-179 (2018.5)

**肥育中期から後期の飼料の定量給与が黒毛和種去勢肥育牛の飼料摂取量, 発育, 枝肉成績および暑熱期の飼料消化性に及ぼす影響 (前田友香他、宮崎畜試)**

黒毛和種去勢肥育牛を14~28か月齢までDG0.75kgの飼養標準TDN要求量110%で定量給与し、その効果を飽食給与と比較検討しました。その結果、肥育中後期の定量給与は飼料効率に優れ、枝肉成績に有意な差異は認められず、暑熱期のCP消化率や窒素蓄積率の低下を防ぐ効果が認められました。

### 2. 日畜会報#89:2, 219-226 (2018.5)

**捕獲方法の異なるニホンジカ(Cervus nippon) における食肉特性の比較(藤原朋宏他、)**

シカによる食害防止と食肉活用は全国共通の課題ですが、ニホンジカ

の捕獲法には「勢子」や犬と「射手」が複数必要な巻き狩りと仕掛けを要するくり罠がありこれらの捕獲方法の違いによる食肉特性の違いを各3頭づつで検討しました。くり罠法で捕獲後1時間以内に放血、解体処理した背最長筋の剪断力価は巻き狩り法よりも低く、肉色a値(赤み)が高く、生肉では捕獲法により食肉特性が異なることが示されました。

### 3. 日畜会報#89:2, 227-234(2018.5)

**接触型電極を用いたインピーダンス測定による牛肉中オレイン酸割合の推定 (鎌田丈弘他、青森産技&畜研)**

ヒトの体組成計に応用されている交流電気抵抗(インピーダンス)を日本短角種去勢牛の枝肉から採取した筋繊維と平行した試料について測定し、脂肪含量や脂肪酸組成との関係を検討しました。脂肪含量の高い腹筋では、100Hzで測ったインピーダンス値とオレイン酸、飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、1価不飽和脂肪酸割合に有意な相関がみられ、接触型電極による生肉のインピーダンス測定の有効性が示されました。

### 4. 畜産技術#758,2018.7

**国内情報3: 牛ゲノムを活用した新たな育種戦略-3 (2018年座談会:穴田勝人、大竹匡巳、大山憲二、小林栄治、柴田正貴、杉本喜憲、後積田守、安森隆則)**

畜産技術協会企画座談会、ゲノム選抜についての解説ですが難解な部分が多くあります。黒毛和種牛の脂肪交雑と枝肉重量という産肉性についてDNAマーカー選抜でどの染色体のどの辺りに影響のある遺伝子があるかを調べると染色体の14番目にマッピングされました。黒毛和種牛の脂肪交雑の育種改良はBLUP法で進み、メジャージーンとして固定されているようです。

## 国産牛 NEWS

日本の赤身牛肉生産とその流通 全4回シリーズ①  
弘前大学生命科学部 松崎正敏教授(日本産肉研究会会長)

